

# ミステリ読書案内

2022. 8. 6 発行元

第383号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 西尾維新「掟上今日子の忍法帖」

西尾維新の『掟上今日子』シリーズの最新作『忍法帖』が6月に講談社から出た。シリーズ14作目に当たる。記憶がその日一日しか持たないという特殊な設定の名探偵・掟上今日子によるタイムリミットミステリ。

### 西尾維新も20周年に

帯に「西尾維新20thank you」と書いてある。2002年の『クビキリサイクル』で登場して早20年。感慨深いものだ。一時期はブームで、新古書店でも高値がつく事態だったが、最近は固定ファンを中心にした展開になってきているようにも思う。『忍法帖』の表紙はキラキラシール風で、人気本の装い。

私は西尾維新作品を全部読んでいないわけではない。スタートの『戯言シリーズ』、その後は『きみ・ぼく世界』を読んだ。しばらく間をおいて『魔法少女りすか』『美少年探偵団』『掟上今日子』などという流れである。パッと見て、「謎解き要素」の強い作品に絞っているつもりである。

### 「掟上今日子シリーズ」とは

『掟上今日子シリーズ』については既に第92号や第262号で取り上げたように、「記憶が一日しか持たない」ところにポイントがある。睡眠を取ると一切の記憶が失われ

る。その意味では、謎解きにも厳しい条件がつけられていることになる。でもこうしてシリーズが14冊も続いているわけで、西尾維新の頭脳が発揮されているのだと思う。

### ニューヨークに場を移して

本作はニューヨークに舞台を移動したのが目玉。ニューヨーク市警殺人課のリバルディ警部とキャステイズ警部補が対応することになる。第一話の『掟上今日子の手裏剣』の出だしに出てくるリバルディ警部の言葉・用法に対する極端な拘りぶりは作者の遊び心に直結している。もっとも、他の人の発言の一語一語に反論を加えていたら、ストーリーはまったく進まなくなる。

日本人にしてみたら時代遅れで、効果の薄いと思われる忍者の手裏剣を外国人のイメージでとらえるところが面白い。今日子さんはニューヨークに不法滞在中なので、容疑者のひとりとして尋問を受けることになる。しまいには「折り紙の手裏剣」や『大風の術』まで繰り出して論を展開していく。

### 「掟上今日子シリーズ」

1. 掟上今日子の備忘録
2. 掟上今日子の推薦文
3. 掟上今日子の挑戦状
4. 掟上今日子の遺言書
5. 掟上今日子の退職願
6. 掟上今日子の婚姻届
7. 掟上今日子の家計簿
8. 掟上今日子の旅行記
9. 掟上今日子の裏表紙
10. 掟上今日子の色見本
11. 掟上今日子の乗車券
12. 掟上今日子の設計図
13. 掟上今日子の鑑札票
14. 掟上今日子の忍法帖

いずれも講談社からソフトカバーの単行本として出版されている。その後大部分は文庫の形になっている。

### カクシダテ・ヤクスケさんは？

ニューヨークの話なので、第一話・第二話には常連のカクシダテ・ヤクスケさんが登場してこない。

「寂しいな」と思っていたら第三話の『不忘術』に突如出現。カナダとの国境にあるナイヤガラ滝で倒れていた人を介抱した今日子さんは特別に作られた刑務所の防弾ガラス越しにヤクスケ氏と対面することに…。果たして今日子さんは無事に睡眠を取ることができたのだろうか…。この分だとまだまだこのシリーズは続きそうである。

### 辻村七子「宝石商リチャード氏の謎鑑定 少年と螺鈿筆筍」

6月に集英社オレンジ文庫から出たばかりの本。シリーズの第12作目に当たる。帯には「待望の第3部始動！」とある。日本を舞台にした中田正義とリチャード・ラナシンハ・ドヴルピアン次の段階の話がスタートする。

今回は「非常に読みやすくなった」と感じた。初期の頃は、作者の言いたいことが伝わりづらい筋運びが目立ったが、本書は落ち着いた展開で、何を描きたいのかがよくわかるものになっている。「ミステリ」の範疇からはかなり外れてきているけれども、物語としては上手にまとめている。視点は中学校1年生の霧江みのる君。病弱な母親との二人暮らしで、生活は極限まで追い詰められている。ある時、みのるはドラッグストアで絆創膏を万引きする寸前まで行く。それを止めてくれたのが中田正義。不思議な出会いの後、母親が入院することになり、みのるは正義の世話を受けることで話が進んでいく。マンションでの共同生活が始まる。みのるの元いた家の隣には広大な洋風の「ジャングル屋敷」があった。夜、みのるが門を乗り越えて中に忍び込むと金髪で美形の自称「幽霊」と出会う。こうして、みのるの日常が大きな転換に動き始めるのだった。今までの独りぼっちだった思いが……。この話は次の巻に続くようである。中田正義の活躍が嬉しい。